

我がノスタルジーの故郷 “韓国・ソウル” への旅

<行程>

- ・ 2001. 5. 9. (水) 関西空港 13時40分発 韓国・仁川空港行 KE724
- ・ 10. (木) ソウル市内訪問、観光
- ・ 11. (金) 韓国・仁川空港 9時50分発 関西空港行 KE723



それは、5月、快晴の日でした。1945年9月15日、引き上げ船・興安丸で山口県・仙崎港に上陸して以来、55年ぶりの我が生まれ故郷“韓国・ソウル”への旅に出ました。

我が愛してやまないご主人様(?)の生まれ故郷とは・・・? さすがの“マリ”も緊張気味でした。



幸運にも、K724の行き先が、子供の頃、海水浴や潮干狩りに連れて行ってもらっていた思い出の仁川（インチョン国際ハブ空港：2001. 3. 29. 開港）でした。到着時刻時には、丁度、引き潮の時に、昔のままの典型的な遠浅の様子を見ることが出来ました。

空港には、予め予約していたガイドの“張”さんが、出迎えてくれました。

仁川からソウルまでの約1時間の車中、55年前のあの思い出が走馬灯のように湧き上がってきて、興奮に変わっていくのがわかりました。遂に、漢江（ハンガン：大きな河・長さ・514Km, 幅・1Km）の橋を渡るときは、思わず、ガイドの説明を断わる思いでした。

改めて、“ハンガン”が韓国の人々の精神的な重要な支柱である事を痛感しました。



民族博物館前（奥の五重の棟の下）



李成桂王朝の彼処所



慶会楼（奥は清正の虎退治の仁旺山）

“ハンガン”の興奮もさめやらぬ間に、韓国・国宝1号、私にとっても思い出のある“南大門”を巡り、庶民の生活が息吹く“南大門市場”に到着した頃には、そのスケールの大きさとあふれる活気に心もなごみ、夕食の“ブルコギ”の後、ソウル・タワー（標高：約400m）から市内の夜景（101万ドル）を楽しみました。

ソウルは、朝鮮李王朝の都として約500年間も歴史の表舞台にあったが、豊臣秀吉の2度にわたる朝鮮出兵（壬辰倭乱：文禄・慶長の役）によって貴重な王宮建築はことごとく焼かれ、破壊された。

政治は、儒教思想を基本理念とし、男性中心の社会制度、祖先・祖国に対する忠誠心、家族・家系を大切にすることなど韓国独特の風土や伝統はこの王朝時代に開発された。ハングル語も既にこの王朝時代に発明され、韓国人のアイデンティティの根幹を確立した。



中央大学附属龍山病院正門



正門横 旧朝鮮鉄道龍山病院



元正面入り口（1階新しいレンガ部分）



生まれ育った家（左上テント下）



龍山国民学校（2年時に疎開先に転校）



漢江大橋から疎開先黒石洞丘を望む

<生れ故郷>

朝鮮京畿道京城府漢江通16番地（朝鮮鉄道龍山病院）

京城時代の我家は、コンクリート造り平屋2軒（？）続きの家でした。それは、今も、やっと面影を残す程度に確かに形をとどめていました。

念のためと思って、近所にいた人に、予め用意してきた戸籍謄本を見せながら聞くと、3、4人が集まって来て、「ここは、昔の朝鮮鉄道官舎だった」と確認してくれました。さらに、「このあたりに憲兵隊があったはずだが？」と問い掛けると「あの高層ビルが、その憲兵隊の後に建っているのだ」とも教えてくれました。

父が南方戦線（フィリピン、マレー方面）に応召後、疎開先に引っ越す2年生まで通った龍山国民学校（3年前から龍山初校と呼称変更）は、すっかり建て替えられ（極く最近の様子だった）、張さんが校長先生に会いに行こうといってくれましたが、遠慮しました。丁度、私が引き上げてきた時と同じ3年生児童が来て、写真に入ってくれました。

父の応召前は、漢江（ハンガン）の南に住み、応召後、終戦で帰国するまで漢江の北側の小高い丘の上の母子寮に疎開し、対岸の住みなれた龍山へ大橋を渡って旧友に会いに通いました。





対岸右隅が病院、左高層が憲兵隊跡



漢江大橋、左側はオリンピック道路



旧友に会いにこの橋を通った



龍山駅(旧駅を建て替え工事中)



地下鉄龍山駅 (少々暗いが、清潔)



ソウル(旧京城)駅



王朝宮中料理 美味しく、品数豊富



韓国伝統舞踊ショー



合計5,000円/人



仁川空港国際線受付カウンター

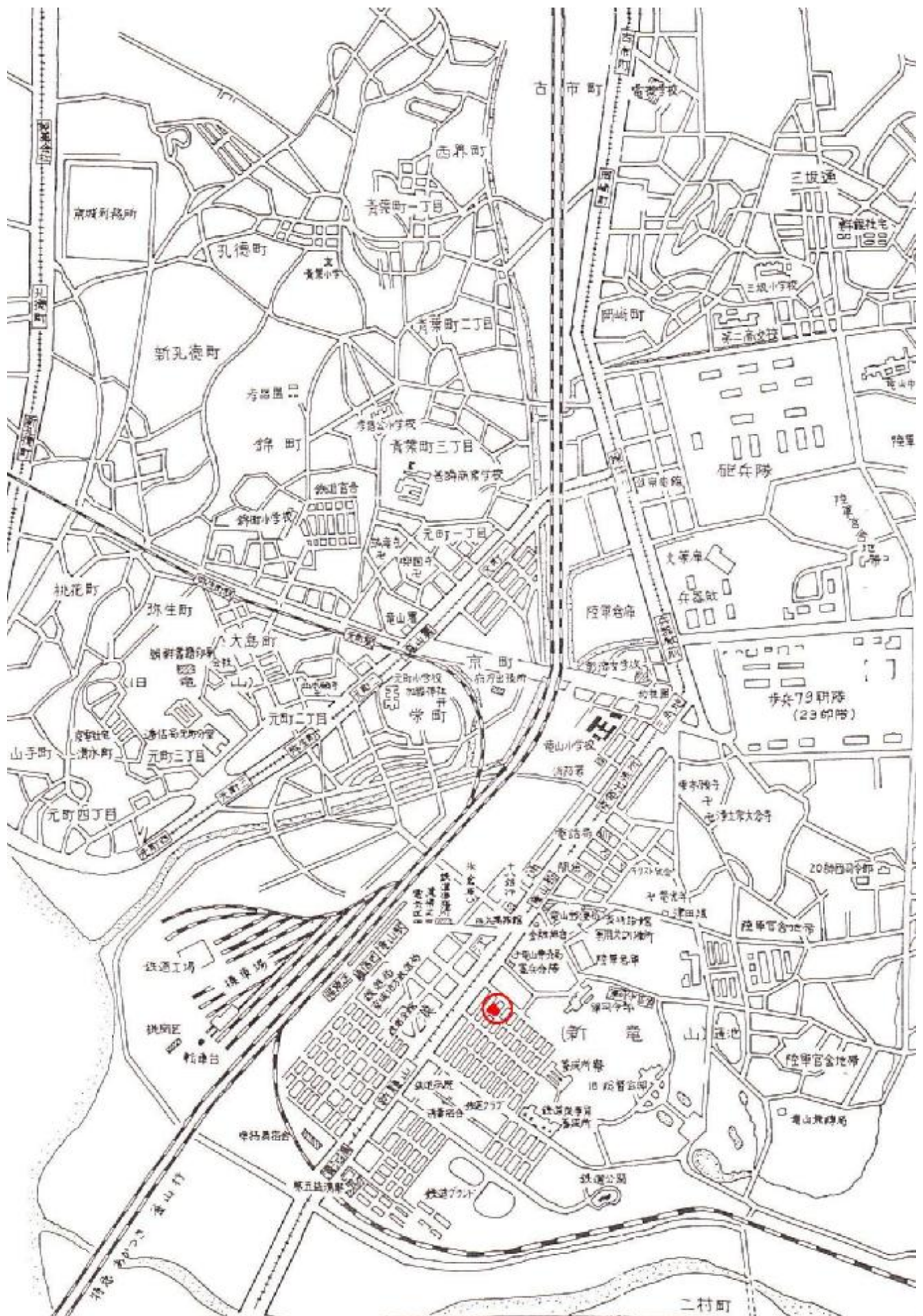


関西空港と似た雰囲気仁川空港



国際ハブ空港の自負を実感、広い!

・韓国国土：日本の約1/4、朝鮮半島全体：約1/2。総人口：4,500万人、ソウル：1,200万人。
 ・仏教徒：1,000万人、クリスチャン：1,700万人（プロテスタント：1000万、カソリック：700万）
 ガイドの張(チャン)さんは、韓国人の思索的な支柱は、昔も、今も、“儒教”の精神であると断言しました。
 インド→中国→韓国と伝わってきた文化を、韓国は、さらに、東の国である日本へ伝える役目を果たし、文化を自国に取り込むことにこだわらず、外から来る文化の受け入れに寛容で、その選択に自主性（自己主張、自己責任）を発揮し、陽性で、表裏のない民族であるとのこと。 **張さん！“思い出”をアリガトウ！**



出典：京城龍山小学校同窓会：『龍山小学校史・龍会史』、1999年（国会図書館所蔵）